

貨物「中長期計画」一基地統廃合攻撃粉碎へ総力をあげて闘おう！

分割・民営化対赤字決算

JR貨物会社九四年度決算を説明

五月二十五日、JR貨物会社は、九四年度決算について説明を行った。

分割・民営化の矛盾を露呈する

JR貨物二年続けての赤字決算

経営の概要については、

(1)、阪神・淡路大震災の影響、円高の一層の進行等から、総じて低迷が続く、低調な荷動きに推移した。

(2)、コンテナ貨物輸送量は、一九五二万トン（前年比0.6%減）

車扱貨物輸送量は、三三九七万トン（前年比0.9%減）
輸送量合計は、五三四九万トン（前年比0.8%減）

輸送収入は、一七七一億円（前年比4.9%減）

(3)、営業費は徹底した経費の削減に努めた結果、前年対比で三四億円の減となった。

(4)、受取利息等の営業外収益は一八億円。支払い利息等の営業外費用は六五億円。

当期損失は七六億円

この結果、経常損失は八二億円（前年対比四四億円増）となり、用地売却等の特別損益の加減、法人税等を差し引いた当期損失は七六億円となった。

これらが、経営状況の概要であり、「国鉄分割・民営化」の矛盾が生じた、貨物会社の二年

JR 7社の1995年3月期決算

	売上高	営業利益	経常利益
東日本	19543(▼1.0)	3881(▼6.8)	992(▼2.2)
東海	10839(▼2.7)	3430(▼12.3)	387(▼39.9)
西日本	8741(▼6.8)	1011(▼26.0)	204(▼62.7)
四国	1699(▼1.5)	▼260(—)	▼5(—)
九州	1019(▼3.8)	▼421(—)	▼1(▼69.7)
北海道	470(▼6.2)	▼132(—)	▼5(—)
国物	1969(▼4.3)	▼35(—)	▼82(—)

（単位は億円、カッコ内は前期比増減率%、▼はマイナスか赤字）

「分割・民営化体制」総破産！

四国・九州もついに赤字転落！

清算事業団の累積債務は九千億円増！

続いた「赤字決算」である。
中長期計画に基づく基地統廃合
賃金抑制攻撃を粉碎しよう！

「赤字」を理由にした、「フ
レート21」による、基地統廃
合等の合理化攻撃、賃金抑制政
策を許さず闘い抜かなければな
らない。

五月二十五日「津田沼支部配転差別事件」地労委

動労千葉排除攻撃粉碎へ向け闘いを強化しよう

五月二十五日、千葉地方労働委員
会に於いて、「津田沼支部配転差
別事件」の、当局側主尋問として
伊藤嘉道JR東日本東京本社投資
計画部企画課長代理が、答弁にた
った。

まず昇進制度について、「駅勤
務から車掌に、そして運転士に、
さらに指導運転士というのが昇進
である」と位置付けている。

これに伴って、六三年十二月四
日、JRになって初めての運転士
試験が京葉運輸区で行なわれた。
この試験によって八名が、運転士
に発令された。これは京葉運輸区
を運転士の養成区にして、各職場
に送り込むとしていること、そ
さず闘い続けます。

動労千葉第三四回定期委員会

日時 六月一七日（土）一三時

場所 千葉県物産センター

新たな動労千葉解体攻撃を粉碎しよう
勝浦運転区廃止攻撃を断じて許すな！